

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第41号

発行:2015年6月5日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160 ・ 082-428-1360

安居会法座

日時 6月23日(火) 9:00~15:00頃
朝席 9:00~11:00 ・ 昼席 13:00~15:00
ご講師 長岡 正信 師(呉市 西岸寺ご住職)

第45回歎異抄輪読会

日時 6月18日(木) 19:00~20:30頃
ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です



仏壮・仏婦からのお知らせ

★天龍寺清掃奉仕

6月13日(土) 13:30~15:00

仏教壮年会、仏教婦人会の皆様を中心に本堂周辺のお掃除をしていただきます。

★天龍寺仏教壮年会 月例会

6月30日(火) 19:00~20:30



☆ 当山の境内地の草を刈っていただきました。

5月13日の昼から暑い中、天龍寺仏教壮年会の方々により、天龍寺の境内地の草刈りをしていただきました。大変お忙しい中、ご尽力を賜りました事、あらためて書面をお借りしましてお礼を申し上げます。



《二益法門・・現益と当益》



細川先生も書いておられました、私も含め多くの方の一番の問題は、この厳しい人生を生き抜くという事ではないかと考える事があります。

しかし、謙遜ではなく私の様な生き方をしている者を先生は『流転している。』と書かれていました。以前にも書かせていただいたと思いますが、海に浮かぶヤシの如く、右から風が吹けば左に流され、左から風が吹けば右に流され、自分にとってよい事があればそちらに行き、自分に不都合な事があればその場から避け、さらに比較の世界に生を受けたがゆえに、勝ったと思えば喜び、負けたと思えば落ち込み、人から評価されれば喜び、人から評価を受けなければ落ち込み、浮いたり、沈んだり等の生活を繰り返しております。そして知らぬ間に深い海の中に沈んでいく存在かもしれません。自分のこれまでの人生を振り返って思いますに、まさしく『流転の人生』そのものだと思います。

さらに先生は、この様な『流転の生き方』をしているといわゆる処世術というものしかないを書いておられました。つまりどの様にすれば、お金が貯まるか。どのようにすれば、健康を維持できるか等々・・・。要するに生きるという事が、処世術・テクニク・方法論で終わると書いてありました。だから書店に並んでいる多くの本が、この処世術等に関するものだと思う事があります。

それ故に先生は『生まれ出る事が大事である。』と言われていています。ヤシの実が、発芽しヤシの木になるということです。その為には大地が必要です。その大地こそが『南無阿弥陀仏・大いなる世界・絶対の世界』だと思います。

大地を持って阿弥陀様の光等により、ヤシの堅い殻が破れ、芽が出る。この事を以前『^{しょういくしょうは}照育照破』という言葉で先生は表現されておられました。

大地に根が出ますと『流転の生き方』が変わります。具体的には、自分にとっての大きなよりどころ、少し表現が誇張されるかも知れませんが、この厳しい現実を生きて行く上でのエネルギーでも表現できるかも知れません。

さらに芽は上に向かって伸び続けていきます。ここに方向性が出来てきます。浄土真宗的に申しますれば、お浄土への人生だと思う事があります。少し過激な書き方になりますが『人間は生を受けたら瞬間から死に向かっていく存在。』だと思う事があります。この考えでは、方向性がないということはありませんが、その方向性にも限界があると思うことがあります。先般の寺報でも書かせていただきましたが、細川先生は『本当の宗教の立場に立てば、この厳しい現実を力強く生きて行く心の支え、生きて行く力、さらには娑婆の縁が切れたらさらに大きな世界に生まれさせていただく約束がなくてはならない』と書いておられます。

この娑婆の人生に於いては、大きなより所を得、娑婆の縁がつかましたらさらに大きな世界に生まれさせていただく事ができるということだと思う事です。

今述べました『大きなより所』を『現益』、『さらに大きな世界に生まれさせていただく事』を『当益』と書いておられました。ここに歎異抄の「すなわち^{せつしゆふしや}摂取不捨の利益にあづけしめたまふなり」というお言葉が、ありがたくいただけることだと思うところでございます。

色々これまでご指導頂き、時に今述べました様な事を思う一方、自分を振り返って思いますに、毎日『流転の人生』を繰り返している自分が存在している事に哀しさを感じ、さらに哀しさを感じつつも、『流転を繰り返す。』明日からの自分がいることに何とも言えない気持ちになることがあります。

